

# 高校生女子を対象とした学校集団登山に関するケーススタディ

## — 登山に対するポジティブな感情をもたらす実践の要素とは —

津山 ゆり (東京学芸大学)

### 1. 目的

本研究の目的は、自らの意志とは無関係に経験されることになる学校集団登山を経て、その後の登山行動の動機となり得る登山に対するポジティブな感情がどのように形成されるのか、その内的なプロセスに着目し知見を得ることである。この目的を遂行するために、以下の研究論点(リサーチクエスション:以下RQ)を設定した。

- RQ1 : 学校集団登山を経験した女子生徒は、登山の魅力についてどのような認識をもっているのか
- RQ2 : 学校集団登山を経験した女子生徒は、登山に関してどのようなネガティブな印象をもっているのか
- RQ3 : 登山に対するポジティブな感情をもたらす学校集団登山実践の要素とは何か

### 2. 研究方法

本研究では、質的研究のひとつである事例研究(ケース・スタディ)を採択し、学校集団登山における参与観察と、対象生徒に対する半構造化インタビューを行った。

- 1) 対象者: X校の学校集団登山を経験した高校生女子(8名)
- 2) 調査時期: 令和元年6月5日~7月22日
- 3) 分析方法: 修正版グラウンデッドセオリー(M-GTA)の分析ワークシートを用いたセマティック分析(カテゴリー分析)

### 3. 結果と考察

#### 1) 登山の魅力についての認識

分析および考察の結果、RQ1では、登山の魅力についての認識として、【登山の楽しみ】【いまここの経験】【感情のゆらぎ】【大自然を感じる】【学び】【他者との関わり】【全体を通して】の7観点および43テーマが生成された。

#### 2) 登山に関するネガティブな印象

RQ2では、登山に関するネガティブな印象として、【登山に対して】【山間での活動】【他者との

関わり】【全体を通して】の4観点および25テーマが生成された。

#### 3) 登山に対するポジティブな感情をもたらす学校集団登山実践の要素

RQ3においては、登山に対するポジティブな感情をもたらす学校集団登山実践の要素として、以下の10要素が導きだされた。

- ① 直接体験的であること
- ② 多様な楽しみに触れられること
- ③ 登頂までの過程を味わえること
- ④ 登山の魅力を味わえる自由度が確保されること
- ⑤ 自己決定の余地があること
- ⑥ 悪天候下における活動の工夫
- ⑦ 登山技術のレクチャー
- ⑧ 山岳ガイド・引率者の質確保および効果的配置
- ⑨ 他者との関わりが効果的に生起する体制
- ⑩ 身体活動面での困難さへの配慮

### 4. 結論

本研究では、X校における学校集団登山の実践をモデルケースとし、これを経験した女子生徒を対象として、登山に対するポジティブな感情をもたらす学校集団登山実践の要素について知見を得た。結論として、RQ3において示された10の要素について配慮することが重要であり、RQ1において導きだされた登山の魅力についての認識が生起する場面が確保されるよう配慮し実施されることが望ましい。また、RQ2において見出されたネガティブな要素のうち、学校集団登山特有のものとポジティブな体験を阻害するもの、その蓄積に留意する必要がある。

### <参考文献>

- 1) 内田昭利・守一雄(2013): 中学生は学校集団登山経験をどう評価するか—潜在連想テストとアンケート調査による評価事例報告—, 信州大学教育学部研究論集, 5, pp.199-208.